

10/7 日本経済

大学側の条件をのむ

東教大 来週中にも授業再開

大学執行部から「異常終止」を
突きつけられた東京教育大学
学部（入江勇司学長）は、六
日の教授会で大学側の出した条件
を全面的に受け入れることを決め
た。その旨を島嶋利義学長代行に報告

した。七日の評議会での決定が
解められぬままでは、授業再
開の遅れでいた文学部でも、米澤
中には一月四ヶ月ぶりに全面的に
授業が始めることになった。

この日午後二時から開かれた文
学部評議会は、三日の評議会で大
学当局が六月中に「イースト」
月から授業をしている筑波移設費
一の同意を要求した（文部省
教官会員が専門に担当する）
特殊事情は教長会の責任において
考査するなどを確認する（文部
省許可を附随し、当分の間、助言
を受けた）ことになつた。

この四項目を全面的に受け入れて
て授業を再開すべきとの意見が
多数をしめ決議された。

二日の評議会で、すでに三十八
人の教官を中心とした授業中断が
ついで、文学部教授会が承認する
特殊事情は教長会の責任において
考査することを確認する（文部
省許可を附隨し、当分の間、助言
を受けた）ことになつた。

この四項目について討議し
た。午後十一時半、採決の結果、
この四項目を全面的に受け入れて
て授業を再開すべきとの意見が
多数をしめ決議された。

この結果は、文部省がこの計画に

入構さらに制限

東教大

文学部の授業封じる

東教大

東京教育大学は学生が授業以外
の事務手続きで入構する場合に限
り、サインだけで入構を認めてい
るが、吉田道義学長氏は四日、
この入構を大幅に制限することを
決めた。これは文部省が、この人
権方式を「合法的」に利用、一部
の授業を実施しているといわれる
ため、その縮め出しをはかつたも
の。この措置によって文学部が独
自に授業を行なうことは完全に不
可能となる。

大庭キナンバスの入構は通学部
が算入する学生、教育学部は
特別身分認定書所持の学生、文学
部は移転準備室教官同行の許可證
を持った学生に限られている。し
かし既来は身分別明表、在学證明
書等の事務上の手続きをとる
場合に限って入構がなくとも、
これに伴い、現在の「事務手続
き」を経なければ、大学側

五時まで入構が自由に認められて
いた。

このため、文学部学生は、この
手続を、合法的に利用、さる

一日から一日平均三百人が入構、
そのままで立候の計画にした
が、筑波移設のための入構時間は、あす六日から平

日は午後三時～四時三十分、土曜
日は午前十一時～正午に制限され
る。

争議連絡のまま大学当局との
対立で、授業再開がストップして
いた東京教育大学文学部は六日、
教授会を開き、まさに大学当局が
ら要求があつて授業再開のための
四条件をすべてのみ「無条件降伏」
する)と決めた。入構制限
男文学部長は、「この結果を、きよ
う七日の評議会に伝えるが、これ
により文学部の移転反対派教官
(約六十人)は、今月中旬から大
学側が独自に立候した文部省監視
計画に加わり、一年之内に至るに
授業を再開することになる。

しかし、これまで大学がとつて
きた一連の強硬姿勢、無理とも
いれる文学部の方針転換、事実上
一分された苦心地教授など、多
くの困難が残されている。

教授会は同日午後二時から開か
れて許可、移転批判のうち、「正常
化に全面協力する教官だけを授
業計画に加える」とことを決定し

た。

この結果を経けるなどの理由から、突

然方針を変え、授業を再開するこ
とにしたため、大学側は「無計畫

の状態のまま授業を再開する」と
の声明を出している。

この決定で文学部教授会は学生
の検査を大學に確約したことにな
るが、大学執行部も「文学部が大

学の正常化路線に協力の姿勢を示
したことと判断、さよう七日の評議

会にはあつたうえ、大学側の立

つたをかけていた。

東教大 教授会が「降伏」

授業再開、大学の条件のむ

東教大

東教大 教授会が、問題をなじ
たため要求してた●教授会の責
任で教官が検問に協力する●移
転推進三十八教育が、これまで
行なってきた授業を正規なものと
の観点。このため、移転を推進し
て認める●当分の間、研究、教
育機能の妨害などの排除は最終
判断を大庭氏に「任せる●文学部

のこれまでの声明のうち、不適當

な表現を訂正する――の四条件を

認められた。

この決定で文学部教授会は学生

の検査を大學に確約したことにな
るが、大学執行部も「文学部が大

学の正常化路線に協力の姿勢を示
したことと判断、さよう七日の評議

会にはあつたうえ、大学側の立

つたをかけていた。